

平成17年度

清方描く四季－春－

清方の春を織り込んだ作品や草花のスケッチを展示した。

会期 平成17年4月22日(金)～平成17年6月5日(日)(開館日数:39日)

総入館者数 3,808人(一日平均:97人)

出品作品

「春の立場茶屋(金沢春景)」「僧房春蘭(牡丹の寺)」「舞妓」「芸妓」「春や昔」
「鐘馗」「有卦自祝之絵」「梅蘭芳 天女散華」「牡丹 一」「牡丹 二」
「ふたつあちさる」「年増美人」「ゆあみ」

関連記事

平成17年5月1日／6月1日

鏑木清方記念美術館 「清方描く四季～春」(広報かまくら)



清方描く四季－夏－

「^は霽れゆく村雨(下絵)」など夏の叙情あふれる作品を展示した。

会期 平成17年6月10日(金)～平成17年7月24日(日)(開館日数:39日)

総入館者数 2,879人(一日平均:73日)

出品作品

「ほゝづき」「夏の柳井戸(柳乃井戸)」「あじさい」「龍膽」「清子四歳像」
口絵:「梅雨晴(『文藝倶楽部』)」「夕涼み(『文藝界』)」「浴後(『文藝界』)」
「さみだれ(『少女界』)」「藤乃の巻(菊池幽芳著『月魄』)」
「百合子(菊池幽芳著『百合子』)」「落花帖(小杉天外著『落花帖』)」「ほゝづき」
下絵:^は「霽れゆく村雨」「紫陽花の谷」「風鈴」「夏ざしき」「鯛」「朝顔日記」「朝夕安居 昼」
「紫陽花の谷」「五月雨」「築地川界限」
表紙絵(『苦楽』):「あまのがは」「湯の宿」「宇治の螢」「箱庭」「芙蓉」
挿絵:「明石町(『画集 東京と大阪』)」「亀井ぼし(『画集 東京と大阪』)」
「佃島(『画集 東京と大阪』)」「紫陽花の垣(『画集 東京と大阪』)」
「柳の井(『鏑木清方繪入本 御濠端』)」

関連記事

平成17年5月19日 日本画家鏑木清方の旧居跡で、作品の制作過程に触れる(サライ10号)

平成17年6月15日 鏑木清方記念美術館 清方描く四季～夏(広報かまくら)

平成17年7月 2日 清方の四季「夏」の収蔵品展 挿絵図録も出版、鏑木記念館(鎌倉朝日)

平成17年7月 1日・15日

収蔵品展「霽れゆく村雨」の下絵など 清方描く四季「夏」(広報かまくら)



清方描く四季－避暑地の思い出－

「朝涼」を始め、清方が避暑地として過ごした横浜金沢「游心庵」にまつわる作品を展示した。

会期 平成17年7月29日(金)～平成17年9月4日(日)(開館日数:33日)

総入館者数 2,524人(一日平均:76人)

出品作品

「朝涼」「夏の思ひ出」「夏の生活」「君ヶ寄漫筆」「水汲」「夕立雲」
「游心庵漫筆」「金沢絵日記」「絵日記(大正15年)」「絵日記(大正期)」
「風景」「雑司ヶ谷会式」
「海水浴(口絵)」「星多き夜(『婦人世界』口絵)」
「金魚屋(下絵)」「金沢游心庵(下絵)」
表紙絵:「葡萄」「海水浴」「赤蜻蛉」「花園」「コスモス」(以上『少女界』)「海風(『文藝俱樂部』)」
「九月の海(「清方畫譜の九」(『講談雑誌』))」

関連記事

平成17年8月1日・15日／9月1日 収蔵品展「清方描く四季～避暑地の思い出」(広報かまくら)
平成17年8月19日 ギャラリー「清方描く四季－避暑地の思い出」〔読売新聞〕
平成17年8月20日 清方描く四季－避暑地の思い出(朝日新聞)



遊心庵

私の家の門前を東へ向いてゆくと、あたりは田圃になつて、小道のほとりに「かまくら道」と刻んだ古い道しるべを見る。こゝから南に隔たる車馬の通ふ広い道路は入江を埋めてから出来たので、畑中に石標の立つ私の門前が昔旅人の通路であつたらしい。この小道は街道に合して、銀杏の大樹に名のある「いちやう八幡」の社前に入る。そこには一路洲崎から稱名寺門前に通じる道筋があつて、今は知らずその頃はこのあたりに藁の木が多く、道路にもあれば農家の前栽にも見られた。こまかい卵形の葉が密生して垂れ下り微風にそよぐ。夏にはいはゆる藁形のちひさな實が累々として葉かげに生るのが涼味を誘ふ。

海水浴にはこの道を畑に沿つてたゞ往けば、疎らに磯馴松の立つ低い砂丘を越え遠淺の海面をそこに見る。一軒の茶屋もなければ脱衣所の設けもなく、もとより海水浴の客を見ることもめつたにない。こゝいらが八景の一つ、帰帆の乙艦なのであらう。對岸は千葉縣の富津で、東京灣口のいちばん窄まつたところときく。野島、夏島も近く、伊藤公、越後の市島家、金物屋梅岡氏の別荘が散在してゐた。

鍋木清方『續こしかたの記』より一部抜粋